

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十九年八月度 入選句 (投稿総数二千五百四十五句・小中学投句数千六百六十五句)

特選

選者 高木 恵理

つの上げてじゆえきとりあうかぶと虫 愛知県名古屋井上 雄太(小三)

かぶと虫の大好きな樹液。一匹がまず樹液を見つけて、木に寄ってきた。独り占めをして大きな満足感を味わっていられるのもつかの間。別のかぶと虫も寄ってくる。手のひらにのるような小さな生き物も、生きるために必死である。自分の見つけた好物の樹液を横取りされてはたまらない。すぐにそのうちの一匹が、自分の角を上げて、相手に威嚇した。もう一匹も負けてはたまらないと角をあげて応戦する。応戦しながらも、目の前の大好きな樹液を味わっている滑稽な姿も見えてくる。そんなかぶと虫とじつと見守っている作者の姿も見えてくる。小さなかぶと虫をいとおしそうに見つめている作者。「つの上げて」という上五が、生き物に生命力を吹きこみ、生き生きとした俳句として完成している。

夏木立しきものひいておべんとう 大垣市 寺山 鈴夏(小六)

夏休み、家族みんなで出かけをしたのだろうか。太陽がまぶしく、青い空の遠くには入道雲も見える。緑いっばいの自然の中を、午前中はゆったりと散策したのだろう。時刻はお昼時。あたりを見渡すと、ちょうどよい日かげがある。あの大きな木の下がお弁当を食べるのにぴったりの場所だ。「あの木の下で食べようよ。」家族みんながにっこりと笑顔になる。一人がかけたして場所をとり、大きな敷物をひいた。木の下に入ると、急にひんやりとした空気に包まれる。朝、早く起きてみんな一緒に作ったお弁当なのかもしれない。お弁当はみんなが大好きな卵焼きや、ウインナー。それとも、からあげだろうか。外で食べると、きれいな空気もごちそうだ。おにぎりをほおばるのもいい。家の中の食事もよいが、自然の中で食べるお弁当は格別だと思わせてくれる俳句である。

ばあちゃんですだれの下でひとねむり 大垣市 野田 朱李(小六)

三世代一緒に住んでいる家族だろうか。いつも自分のことを大切に思ってくれている大切なばあちゃん。宿題が分からないときは、勉強を教えてくれるばあちゃん。つらいことがあって元気がないときも、優しく見守ってくれているばあちゃん。時には、落ち込んでいる自分を励ましてくれることもあっただろう。長い人生。きつと朝早くから晩までこれまですつと、働き続けてきたのだろう。いつもは誰にも弱みを見せないばあちゃん。あれあれ。ばあちゃんがすだれの下で、お昼寝をしている。外からの優しい風がすだれを揺らす。とても気持ちよさそうにすやすや寝息をたてている姿が見えてくる。これまでは自分を守ってくれていたばあちゃん。でも、これからは自分がばあちゃんを見守っていくよ、という作者の優しいまなざしも見えてくる俳句である。

秀逸

川上で光って会話 蛸たち 大垣市 水谷 紗彩(小六)

うら口でおどかさないでなめくじら 大垣市 長澤 麻未(小四)

かき氷となりの人は飲んでいる 美濃加茂市 坂井 厚志(中三)

川すみにぶかぶかうかぶスイカたち 美濃加茂市 西村 照生(中三)

今夜だけ光輝く月下美人 美濃加茂市 高木 理名(中三)

手の中に南極大陸かき氷 美濃加茂市 野田 花(中三)

麦茶飲む空手の続きがんばろう 大垣市 名畑 高祐(小六)

せみの声しずまりかえって川の音 大垣市 佐竹 美仁(小六)

せみの声水門川とながれてく 大垣市 横川 大和(小六)

ムカデさん百本足で一・二・三 大垣市 伊藤 美紅(小三)

入選

もやいぶねかくれがになる夏のこい	大垣市	吉野	孝俊(小六)
店先に並ぶ便箋夏模様	美濃加茂市	渡辺	留妃(中三)
あさがおも朝にめざめるおはようと	美濃加茂市	細田	佑奈(中三)
うちの猫バツタつかまえ見せにくる	美濃加茂市	笹山	隼(中三)
かき氷壊れる結晶切なくなる	美濃加茂市	佐伯	弥倅(中三)
一勉強二に勉強の十五の夏	美濃加茂市	加藤	万弥(中三)
麦茶飲み元気を少しとりもどす	大垣市	丸井	梨夢(小六)
水草にかくれたこいが顔を出す	大垣市	安田	翔哉(小六)
麦茶飲みひんやり通るのどのおく	大垣市	野田	海都(小六)
なつの日が水の中でも光ってる	大垣市	中井	野々花(小六)

入選

すいかわり土に当たってしっぱいだ	大垣市	わたなべ	しおり(小三)
はたた神高い所で火をはなつ	大垣市	秋山	丈(小三)
あせが出るふいてもふいても出てくるよ	大垣市	つじい	みき(小三)
川遊びさつそくもぐると石だらけ	大垣市	松村	理々乃(小三)
おじいさんビールをのんであわおひげ	大垣市	佐竹	璃菜(小三)
やもりさんしつぽがとれてないちやつた	大垣市	森	結愛(小三)
水草を水門川がなでている	大垣市	高木	利奈(小六)
青葉風ぼくの体をとおりぬけ	大垣市	河野	舜太朗(小六)
なつやすみはやくいきたいようちえん	大垣市	高田	一花(三才)
せみしぐれ工事の音をかき消して	大垣市	日比	成(小六)

選者吟

富士山を見ながら崩すかき氷

恵理